

関西大学幼稚園

2021 年度学校評価報告書



2022 年 3 月

目 次

2021 年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1	本園の概要	1
2	今年度の教育活動状況	1
3	評価の実施にあたって	2
4	評価の分析	3
5	学校関係者評価委員会からの評価結果	18
6	「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	21
7	アンケート結果	22

1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を十分に尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として1951年に開設され、創立70年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」、「協同性の涵養」、「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適應できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」、「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」、「困難に出会った時、前向きに解決していきける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を發揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を越えて守っていかなければならないと考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、銀杏、せんだん、くぬぎ、楓、つつじ、椿、金木犀のほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー等の実のなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなっており、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達を図るための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「Kandai Vision 150」に基づき、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

2 今年度の教育活動状況

今年度もコロナ禍での保育となったが、行事や取組は昨年度の経験からクラス単位で行う等、感染対策を講じながら工夫して行うことができた。創立70周年を迎えたが、記念行事等は実施せず、機関紙「はぐくみ」の記念号発行のみにとどめた。

併設校の利点を生かした大学との連携に関しては、関西大学国際部と連携し、保育時間中に外国人留学生を招き、園児との交流を深める取組を実施してきたが、昨年度と同様、今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、外国人留学生は入国できない状況となり実施できなかった。一方、関西大学大学院心理学研究科の「心理アセスメント演習2」の一環と

して本園で実施する短期実習及び関西大学第一中学校との「総合学習」における生徒と園児の交流は、感染予防に努めながら実施することができ、双方にとって有意義な交流となった。加えて、商学部学生のSDGsへの取組（環境に優しいスコープ作り）では、子どもの手の大きさを測定し、試作のスコープを使用して年長児が芋ほりを行った。

3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、昨年度から、関西大学幼稚園教育課程における内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点をあて、4年かけて一巡する評価方法としており、今年度は2年目である。

幼児教育は、何より保護者（家庭）との連携が重要であることから、保護者と直接関わる「クラス懇談会」において、本園の教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連を伝え、5領域を保育に組み込んでいることを理解していただけたかを点検・評価する取組にした。5領域の内容については、事前に保護者に手紙で周知し、理解を深めていただけるようにした。

本園では下表のように評価活動の年次計画をまとめている。

2021年度 クラス懇談会における学校評価の内容

	年少組	年中組	年長組
9月	お弁当・給食について	安全教育（通園・避難訓練）について	お誕生日のお祝いについて
11月	散策について	チューリップの球根植えについて	小鳥・うさぎ・かも当番について 野菜の栽培について

*クラス懇談会終了後に、アンケートをとり、悩みや質問については次回のクラス懇談会での話題にする。

また、2021年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下の通りである。

日付	議題	内容
5月10日（月）	今年度の学校評価について	
5月18日（火）	今年度の保護者アンケートについて	・アンケート項目の作成
9月8日（水） 9月9日（木） 9月10日（金） 9月13日（月）	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
9月16日（木）	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計

9月17日(金)	アンケート実施	
9月21日(火)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
9月22日(水)	アンケート実施	
11月9日(火)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
11月11日(木)	アンケート実施	
11月12日(金)	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
11月18日(木)	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
11月19日(金)	アンケート実施	
3月1日(火)	教員用アンケート実施・集計	・今年度の学校評価アンケート
3月	学校関係者評価委員会開催	

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。今年度も、クラス懇談会終了後に保護者アンケートを実施した。アンケート回収率は94.4%であった。

4 評価の分析

(1) 年少組9月クラス懇談会

お弁当・給食について

【現状の説明】

お弁当・給食においては、教員や友だちと和やかな雰囲気の中で食べることの楽しさを味わい、色々な食べ物に興味や関心を持つことをねらいとしている。こうした保育内容は、以下の5領域のねらいとの関連を意識して組み立てている。

- 「健康」
 - ・先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心を持つ。
 - ・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
- 「人間関係」
 - ・先生や友だちと共に過ごすことの喜びを味わう。
 - ・自分でできることは自分でする。
 - ・友だちのよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
 - ・友だちと楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
 - ・高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活の深いいろいろな人に親しみを持つ。
- 「環境」
 - ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。
 - ・季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く。
 - ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわった

り、大切にしたりする。

- 「言葉」
- ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
 - ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
 - ・親しみをもって日常の挨拶をする。
- 「表現」
- ・かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

お弁当・給食は、生活リズムの中で、同じ時間にいただくようにしている。子どもたちは初めに石鹸で手を洗い、うがいをしてから昼食の準備をする。手洗いについては、唱え歌を用いて楽しみながら手洗いの習慣が身に着くよう働きかけている。その後、ランチクロス、箸、コップ、弁当等を子ども自身で机に並べて待つことを、年少児は教員の手を借りながら行い、自分でできるように働きかけている。(健康・人間関係)

食前には手を合わせて食前の歌を歌っている。食物は太陽や大地といった自然からの恵みであることを感じられる歌であるが、保育の中で年長児がトマトを育てていることを知ったり、園に実っている木の実をいただくことから自然への興味に繋がっていくと考えている。(人間関係・環境)

本園の昼食は、給食が週3回、お弁当が週1回である。お弁当は子どもにとって保護者の愛情がこもったものであり、慣れ親しんでいる家庭の味で安心して食べることが出来る。そして、保護者が作ってくれたという嬉しい気持ちが喜んで食べることに繋がっていくと考えている。年少児には、子どもが食事に集中できるように飾りを控えること、子どもが全部食べられたことを嬉しいと感じられるように、食べきれぬ量にすること等の配慮をしてもらえよう保護者をお願いしている。併せて、食べやすいように小さなおにぎりにすること等の工夫もお願いしている。

給食は関西大学生生活協同組合飲食事業部と連携し、作りたての温かいものを提供している。栄養バランスはもちろんのこと、子どもたちが様々な食材を口にし、旬の食材を取り入れることで季節感を味わうことを大事にしている。野菜をたくさん摂れるような具だくさんのみそ汁や中華丼等を子どもが食べやすいよう工夫し提供している。また、配膳方式を取り入れており、教員が子ども一人ひとりの食べる量に合わせてお茶碗やお皿に盛りつけている。保育室に運ばれてくる給食がどこから来たのか、誰が作ったかを尋ねる子どももいるので、教員は、園児の生活には様々な人の関りがあることを知れるように、また感謝の気持ちを持てるように言葉をかけている。(人間関係・言葉)

クラスの友だちと楽しく食べる雰囲気の中で、食事マナーの指導にも力を入れている。テーブルに向かい椅子から離れず食べること、よく噛んで食べること、お茶碗を持って食べることやその持ち方、お皿やお弁当箱に手を添えること、ご飯粒を残さず食べること、食器を自分で片付けること等を知らせている。友だちが器用にお箸を使う姿を見て同じように真似をしたり、苦手なものでも友だちが美味しそうに食べている姿を見て挑戦したりする

様子が見られる。また年少児は、お箸を上手に使えない場合があることから、遊びの中でお箸を扱うことを取り入れた。(健康・人間関係・表現)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『お弁当・給食』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が100%であり、保護者に理解していただけていることがわかる。また、『お弁当・給食』の話を知り、一緒に行ったことで、思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですとお書きください。』の設問に対しては、「ただ食事をとるだけではなく、食事の時のマナーや、太陽と大地に感謝して食べる等、食育もされていると知り、子どもの成長過程でとても大切なことだと感じました。ご飯を食べる時だけでなく遊びを通じてお箸の練習をしたりすることで『やらないといけない』ではなく『やりたい』と思って行動させてくださっていることにありがたく思いました。」、「『食べる』という行為ひとつをとっても、子どもにとっては、様々なことに繋がっているということを知り、改めて感じました。」との記述回答があり、お弁当・給食において本園が大切にしていることを理解していただけていることがわかった。今後も家庭と連携しながら、子どもたちが食に興味を持てるように働きかけていく。

(2) 年中組9月クラス懇談会

安全教育(通園・避難訓練)

【現状の説明】

本園では通園時及び園生活全般において、子どもたちが自ら危険を予測し、回避できる力が育つことを目的とした指導を行っている。

安全教育では、以下のような5領域のねらいと内容との関連を意識している。

- | | |
|--------|--|
| 「健康」 | <ul style="list-style-type: none">・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動する。・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全気をつけて行動する。 |
| 「人間関係」 | <ul style="list-style-type: none">・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。・自分で考え、自分で行動する。・よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 |
| 「環境」 | <ul style="list-style-type: none">・身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。・日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。 |
| 「言葉」 | <ul style="list-style-type: none">・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。・生活の中で必要な言葉がわかり、使う。 |

「表現」 ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

通園において、本園は駅に近いという立地条件から阪急電車を利用した電車地区と徒歩地区に分けての集団通園と個人通園を行っている。集団通園では、交通ルールや公共のマナーが習慣として身につくように、その都度の指導と共に各学期はじめに、地区ごとに通園時の注意点を確認し、子ども自身が意識を持って安全に通園できるように働きかけている。

(健康・人間関係・環境)

交通ルール、公共マナーの指導については、園と家庭が一貫性を持って子どもに伝えていくことが大切と考え、地区ごとに集合場所等で注意すべき点を保護者と確認するとともに、「通園だより」を年4回発行し、園の考えや子どもの姿を伝え、園と家庭が共通の意識を持って子どもに働きかけるようにしている。(健康・人間関係・環境)

雨の日は滑らないように気を付けること、暑い時には帽子をかぶること、寒い時には防寒着のファスナーを閉めること等、天候や季節によって気を付けないといけないことが異なるため、通園を通して季節の変化を感じ、その時々々の注意点を知り、それを教員や友だちと共有しながら自ら守れるようにしている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

避難訓練において、本園では地震、火災、不審者侵入時を想定した避難訓練を年6回行っている。地震の避難訓練では、身を守る方法や防災頭巾の被り方、保育室内の安全な場所の確認、戸外や園外への避難の仕方を指導している。火災の避難訓練では、煙を吸い込まないように、手で鼻と口を押さえることを指導している。不審者侵入時の避難訓練では、警戒音が鳴った時に教員の顔を見て、教員の指示通りに動くように指導している。また、これらが園内のどこで起きても対応できるように、プールや裏山等様々な状況を想定して行うようにしている。(健康・人間関係)

それぞれの状況に応じた避難の仕方を子どもたちが知り、一人ひとりの子どもが安全に対して意識を持ち、自ら考え行動できるようにしている。(健康・人間関係・言葉・表現)

教員は避難訓練時に、子ども一人ひとりがどのような行動をするかを把握し、実際に避難する時に対応できるようにするとともに、避難訓練時には過剰に子どもを不安にさせたり怖がらせないように心がけている。過去の災害の話をしたり、災害を扱った紙芝居や絵本を読んだり、大人のそばにいれば安全であることを伝えるとともに、子ども自らが気持ちを表現したり、災害時にはどのように行動したらいいかを考え、行動できるようにしている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

また、避難訓練だけでなく、園生活の中でも、歯ブラシを口に入れたまま歩かないことや、ハサミやお箸の扱い方、保育室では走らないこと等を伝え、自分自身で危険を予測し回避できる力を育みたいと考えている。(健康・人間関係・言葉・表現)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると『『安全教育(通園・避難訓練)』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が95.8%

であった。また、『安全教育（通園・避難訓練）』の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。』の設問に対しては、「通園や防災に関しても、日々の積み重ねが大切なのだと思いました。また、何事に関しても自分自身で気付いて行動ができるようになることが大切なのだと思いました。」、「年に6回、不審者、地震、火災などそれぞれの場面を想定して避難訓練していただいているとお聞きし危機管理が徹底していると感じ、安心しました。」、「3年間同じ形の防災頭巾を使用している等、子どもたちがすぐに自分で使える状態にさせていただいてとても安心しました。電車通園にも慣れ、『電車の中は静かにするんだよ。』と子どもに言われた時には、日々の通園で教えていただいているマナーが身についていると思いました。」、「幼稚園任せにするのではなく、家庭でもきちんと説明していく一貫性が大事だと気付かされました。私自身、車の運転や自転車の送迎でついつい急いでしまうことがあります。どうしていけないのか、人の命を守ることに繋がることを教えていきたいと思いました。」との記述回答があった。幼稚園教育要領と関連して伝えたことにより、子ども自身が安心、安全な行動、危機管理を身に付けていくことの大切さが伝わっているとアンケート結果からわかった。また、様々な場面を想定して避難訓練を行っていること、それを3年間積み重ねて行っていること等が保護者の安心に結びついていることもわかった。更に今回の懇談会により、保護者が家庭での安全教育を見直す機会となったこともわかった。

今後もこれまでの経験や情報をもとに、子どもの現状に合わせて内容を改善しながら安全教育を積み重ねていく。

（3）年長組9月クラス懇談会

誕生日のお祝いについて

【現状の説明】

誕生日は、子供がこの世に、かけがえのない存在として生まれた大切な日である。本園では一人ひとりの生まれた日を大切に考え、誕生日当日にお祝いの日を持つことを大切にしている。休園日などで当日にお祝いすることが難しい場合は、前日やなるべく近い日にお祝いの日を持つようにしている。本園での誕生日のお祝いは、以下の5領域のねらいと内容との関連を意識している。

- | | |
|--------|---|
| 「健康」 | ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 |
| 「人間関係」 | ・身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 |
| | ・先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 |
| | ・自分で考え、自分で行動する。 |
| | ・友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 |
| | ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 |
| | ・友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 |

- ・友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
 - ・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
 - ・高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活の深いいろいろな人に親しみをもつ。
- 「環境」
- ・季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く。
 - ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
 - ・日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- 「言葉」
- ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
 - ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話、伝え合う喜びを味わう。
 - ・先生や友達の言葉や話に興味をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
 - ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
 - ・親しみをもって日常の挨拶をする。
 - ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- 「表現」
- ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
 - ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
 - ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
 - ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなどする楽しさを味わう。

お祝いの日には保護者に来ていただき、クラスの子どもたちと一緒にお祝いのひと時を持っている。子どもにとっても、保護者にとっても誕生日を祝福されることは大きな喜びである。お祝いは、クラス全員が輪になった状態で始め、教員のお祝いの話の中で誕生日の子どもがお祝いのテーブルの前に座る。お祝いの仕方は、学年によって異なるが、保護者に子どもが生まれた時の様子や家族の気持ちをお聞きしたり、教員が子どもたちに伝えることで、その子がかげがえのない存在として家族に迎えられ、大切に育てられていることを感じられる時間になりたいと考えている。そして、保護者も改めて我が子の成長を振り返り、元気に育っていることに喜びを感じる機会になればと考えている。また、クラスみんなでお祝いすることで、祝ってもらっただけでなく友だちにも誕生日があることを知り、友だちの誕生日を祝う気持ちも育んでいきたいと考えている。(健康・人間関係・言葉)

誕生日のプレゼントについては、年少児は拍手を贈り、年中児は季節感を題材にしたものを教員の指導のもと制作している。年長児は年中時での経験を活かし、各自が誕生日の友だちに贈りたいものを作れるように指導している。お祝いの日には教員は、誕生日の子どものこ

を思いながらお祝いのテーブルを作っている。園に咲いている季節の花や木の実を飾ったり、美しい鉱物や海のもの、山のを飾ったりすることから身近にあるもの、自然の美しさ・豊かさ・温もりを感じられたらと考えている。園長からは手作りのカードを贈っている。(環境・言葉・表現)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『お誕生日のお祝い』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が100%であった。また、『お誕生日のお祝い』の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。』の設問に対しては、「日々の中で子どもが誕生した日の事を振り返ることがなかなか出来ずにいますが、幼稚園の『お誕生日のお祝い』の時間は、子どもが誕生した日を振り返り、目の前にいる息子の成長を感じられる、とても貴重で大切な時間です。そして息子のお祝いの時間、クラスのお友だちがとても優しい眼差しで見守ってくれている時間に私はとても癒されています。」、「一人ひとりの生まれた日を大事にしている事がとても嬉しく思います。」、「一人ひとりのことを大切に考え、思い出に残るお祝いをしているなと思います。3年間、同じお祝いをするのではなく、段階的にお祝いをしていると思えました。毎回素敵なお祝いをしていただき、ありがとうございます。」、「お誕生日のお友だちのことを考え、プレゼントを作成することもまた、人を想い人間関係をより濃く、豊かにしてくれると思います。」、「自分の誕生日だけでなく、お友だちの誕生日を祝うことも楽しみにしているようです。」、「ただプレゼントをもらえる日というだけでなく、色々な人にお祝いをしてもらい、産まれてきた事が嬉しいと思えたり、自分のことを大事に思ってもらえたらいいなと思う。保護者も産まれた日のことをふり返り、原点に戻れるいい機会になる。」、「鉱物や海のを飾る事で自然とのつながりを意味している事に感心し、先生のお話を聞くことで自分の中に言葉、想像を育ませ、お友だちにプレゼントをする物を友だちを思いながら作る気持ちを育てている事を聞いて、とても感動しました。」との記述回答があった。これらのアンケート結果から、本園がお誕生日のお祝いをする上で大切にしていることが保護者にも理解していただけたことがわかった。今後も、園児一人ひとりのお祝いを大切に、生れてきた喜びを保護者、友だちと一緒に感じることができるよう努めていく。

(4) 年少組11月クラス懇談会

散策について

【現状の説明】

散策では園内の自然に触れ四季の移り変わりを感じ、感性を育てることを大切に考えている。また、散策により見つけたことや感じたことを自分の言葉で話し、友だちと共有することでコミュニケーション能力を育てることもねらいとしている。1年を通して移り変わる実のなる木等の様子を見ていき、収穫し、分け合っていただく経験や、季節によ

る虫や小動物の変化等に興味を持ち、自ら気が付くことで、小学校生活での学びの喜びに繋がるように意識している。こうした保育内容は、以下のような5領域のねらいとの関連を意識して組み立てている。

- 「健康」
 - ・明るくのびのびと行動し、充実感を味わう。
 - ・先生や友達とふれ合い、安定感をもって行動する。
 - ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 「人間関係」
 - ・身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。
 - ・友だちと関わりながら喜びや悲しみを共感しあう。
 - ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
 - ・友だちの良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
 - ・友だちとの関わりを深め、思いやりを持つ。
- 「環境」
 - ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。
 - ・身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
 - ・自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
 - ・季節により自然や、人間の生活に変化があることに気付く。
 - ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- 「言葉」
 - ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
 - ・人の言葉や話などを聞き、自分の経験したことや、考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- 「表現」
 - ・色々なものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
 - ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
 - ・生活の中で美しいものや心を動かした出来事に触れ、イメージを豊かにする。
 - ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

四季を通じて散策を保育の中に取り入れている。園内には実のなる木や、常緑樹、落葉樹があり、季節の花々も子どもの目の届くところにある。これらの木々や花々が季節により変わっていく様子に気が付くことで自然に親しみを持ち、興味や関心が育つことを大事にしている。(健康・環境)

いつも目にしている園内だからこそ変化に気が付きやすく、自分の言葉で友だちに伝え、共有することで、気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう経験になるものと考えている。

(健康・人間関係・言葉・表現)

クラスで行動する際には、勝手に遠くへ行かない等自分で気が付き、きまりを守ろうとす

る社会性を育めるよう言葉がけをしている。(健康・人間関係)

教員は、四季や自然の変化を意識して過ごしているのはもとより、事前に園内を見て回り、どんなところを気付かせたいのか、どこで立ち止まったら子どもたちが見やすいのか、子どもの目線に立って保育を考えるようにしている。散策をしながらゆったりとした気持ちで風を感じたり、陽の暖かさを感じることや小さな生き物に出会うことで自然とふれ合い、その美しさや不思議さに気が付き、豊かな感性が育つことを大事に考えている。(健康・環境・人間関係)

また、四季を通じて実のなる木を見守り、その変化を、季節を通して追い、収穫時期に収穫された果実をクラスの友だちといただくことにより、楽しみに待つこと、分け合うこと、旬を知ること等、子どもの心を育てる経験になっている。(健康・人間関係・環境・言葉)

今回のクラス懇談会では、保護者がイメージしやすいようにクラスの子どもの様子を会話などを交えながら話をした。

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『『散策』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が100%であった。また、『『散策』の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。』の設問に対しては、「たくさんの自然に触れることが出来てとても良い環境で過ごしていると思います。草花や木の実など、家庭での会話に出てくるようになり、保護者も勉強になるので楽しいです。」「普段、気に留めなかったこと(葉の形・紅葉・葉の色)を子どもに言われて気が付くことが増えました。」との記述から、散策が家庭での会話の助けになっていることが伺える。「子どもが、紅葉の葉や金木犀などを自分で発見しているので、私も一緒にもっと共感していこうと思いました。」「子どもが『幼稚園でみんなと食べたミカンを買って。』と言うようになりました。」と保護者が子どもの話から影響を受けていることがわかる。このことから園生活と家庭生活は切り離すものでなく、一緒に子どもを育てることを改めて感じた。「五感を大切にすること、思い出や人間関係の育ち、思いやる心の育ち、そこから人と分かち合う心や感謝できる心が散策から育つこと。子どもの育ちがとても大切なのだと改めて感じました。」と本園が大切にしている保育観に触れるような回答があった。家庭での子どもの姿や園での姿から、散策が、子どもの5領域の発達に様々に働きかけていることが分かった。子どもが楽しみ、興味を持ちながら、子どもの身近なものから発達、心の育ちを育み、その成長を支えることが大切だと考えている。クラスで分かち合うことや友だちとの繋がりを大事にしながら、健やかな子どもの育ちを助ける環境を作れるように教職員で確かめ合っていきたい。今後もクラス懇談会において、保護者と一緒に子どもたちの成長を考えていきたい。

(5) 年中組11月クラス懇談会

チューリップの球根植え

【現状の説明】

本園では、毎年11月下旬に全園児が一球ずつチューリップの球根を自分の手で植えている。植えてからは、芽を出し葉が育つ様子や、つぼみがついている様子等を見に行き、春に花が咲くのを楽しみにするようにしている。

これらの体験を重ねる中で、以下の5領域のねらいと内容との関連を意識して取り組んでいる。

- 「健康」 ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 「人間関係」 ・ 身近な人と親しみ、関りを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。
・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- 「環境」 ・ 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
・ 身近な動植物に親しみを持って接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- 「言葉」 ・ 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝えあう喜びを味わう。
・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
・ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- 「表現」 ・ いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。
・ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

子どもは、保育室から畑まで自分の手で大切に球根を運び、土の中に入れ優しく土を掛けて植えている。その際に教員は、球根はどこから芽を出し伸びていくのか興味を持てるように話し、植える向きも意識するように伝えている。(健康・人間関係・環境)

植えた後は、園内を散策する中で、植えた時からの変化や前回見た時との違いに目を向け気付けるように働きかけ、植物の生育過程に興味・関心を持てるようにしている。また、気付いた事を伝え合う等、心動かされた時の気持ちに寄り添いながら過ごすようにしている。(環境・言葉・表現)

また、保育室ではヒヤシンスの水栽培をしている。同じ球根から育つ植物であるヒヤシンスの生育過程を見て、チューリップも土の中で根が伸びてから芽が出ることや、土の中でしっかりと根をはっていることを知れるように話をしている。(環境・言葉・表現)

花が咲き終わると、年長児が球根の掘り出しと花壇の雑草抜きをし、さつま芋を植える準備を行う。植えた時の球根との変化に気付いたり、再度花を咲かせることを知る経験となっている。(健康・人間関係・環境)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると『チューリップの球根植え』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が96.1%であった。また、『チューリップの球根植え』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。』の設問に対しては、「植物を自分で植え、成長を見届ける体験はなかなか家庭ではできていないので、貴重な体験になると思う。」「ヒヤシンスの根と成長の比較をして根の育ちを想像させるというのも子どもの観察力が育ち良いと思う。」「冬の間も土の中で命が育っているというお話が印象的だった。」「見えないものにも想いをめぐらせたり、自然を感じたり、想像したり、家では行き届かない心の成長に働きかけていただいていることをいつもありがたいと思っている。」との記述回答があった。これらのアンケート結果から、保護者に本園が大切にしていることを理解いただけていることがわかった。今後も子どもたちには、保育の中での散策などの時間を通して四季の移り変わりを感じられるように取り入れていく。また、家庭でも自然や季節の変化に興味や関心を持ってもらえるように働きかけることに努める。

(6) 年長組11月クラス懇談会

ア 野菜の栽培（トマト・芋の苗植え・芋堀り）について

【現状の説明】

本園では、野菜の栽培として、フルーツトマトとさつまいもの栽培をしている。苗植えをして苗から育てることで、葉や茎の成長を見ながら、太陽の光と大地の栄養、雨の恵みを受けて育っていることに気付けるように働きかけている。また、栽培の経験から食べ物には多くの人が関わっていることを知れるようにしている。トマトは実ると収穫し、クラスで分けていただく。芋は実ると年長児が芋堀りをし、後日焼き芋をしていただく。収穫を喜び、友だちと一緒に採れたてのトマトや出来立ての焼き芋をみんなでいただく喜びを大切にしている。トマトや芋の成長過程を観察することや焼き芋で焚火の炎を見たり煙の匂いを嗅いだこれらの経験は、小学校の理科へ、そして生命の大切さを知ったり、収穫の喜びを感じることで生活科へと繋がると考えている。また、焼き芋の下準備や、出来立てをいただくことは、家庭科へと繋がると考えている。こうした保育内容は、以下のよう5領域のねらいとの関連を意識して組み立てている。

- 「健康」
- ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
 - ・先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
- 「人間関係」
- ・先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
 - ・自分でできることは自分でする。
 - ・友達と関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
 - ・友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
 - ・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力し

たりなどする。

「環境」

- ・生活の中で、様々な物に触れ、その物の性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- ・季節により、自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

「言葉」

- ・先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ・生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

「表現」

- ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- ・生活の中で美しいものや、心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

トマトの栽培は、子どもたちと苗を観察し、教員が苗を植える。その後は当番で毎日水やりをする。水やりをしながらトマトの成長や変化に自ら気付けるように働きかけている。水やり当番で見つけた変化や気付いたこと、感じたことをクラスで一人ずつ伝え合うことで、自分の言葉で話すこと、イメージをもって聞くことを大事にしている。友だちの発見から、トマトの成長に興味を持つきっかけになったり、自分の当番の時に思い出しながら水やりをし、共感したりする姿がある。(人間関係・言葉)

トマトの実が緑色から赤くなっていくのを見守り、食べ頃になるのを楽しみに待ち、食べ頃になると当番の子どもが収穫し、クラスのみんなで分けていただいたり、子どもたちの声から、年少・年中児に届けて喜ばれる体験も大切にしている。自分たちで育てたトマトは“特別”なようで、苦手な子どもも食べようという気持ちになったり、嬉しそうに食べる姿が見られる。トマトが育ち、実もいただいた後は、苗からの成長が描かれたトマトの絵本を読み、子どもたちが実際に見てきた成長と結びつくようにしている。その絵本の最後の頁には、トマトから種を採る様子が描かれており、種を採りたいという子どもたちの声が多いことから、実際に種を採ることにしている。

さつまいもの苗植えでは、子どもたちが実際に苗に触れることで、少し根が伸びていることや、葉の形、つるの色等を観察し、根が伸びて芋が実ることを不思議に思ったり、興味が

持てるように働きかけている。また、苗を植える前には、畑を耕し土の準備をしてくれている人がいることを知らせ、色々な人の協力を知ることを大事にしている。

苗植えの後は、根付くまで水やりをすることで、植えた直後は元気がなかった苗が元気になる様子や、根が張り、根から水や栄養を吸収していることを知れるように働きかけている。芋が実ることを楽しみに世話をし、収穫の日を楽しみに待てるようにしている。年少・年中児には、園内散歩を通して、さつまいもの成長を見守り、季節に合わせて変化していく様子に気付けるようにしている。世話をした後や、散歩をした後は、クラスで伝え合うひとときを持ち、気付いたこと、感じたことを言葉で表現することを大切にしている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

芋が実ると、年長児が芋掘りをし、収穫する喜びを感じることを大切にし、芋を大事に扱えるように働きかけている。子どもたちには、つるを引っ張り、スコップで土を掘り、芋が見えてきたら傷つかないように手で掘るように伝えている。中にはなかなか芋が掘り出せず、苦戦する場合もあるが、根気よく掘る姿や友だちと一緒に力を合わせて掘る姿が見られる。年長児が芋掘りをしている様子を年少・年中児は近くで見守り、年長児への憧れの気持ちが膨らむように働きかけ、この憧れの思いが、年長児になりさつまいもの栽培をするにあたって、意欲的に取り組む姿に繋がるようにしている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

芋掘りの後日、園庭で焼き芋をしている。年長児が全園児分の芋を洗い、新聞紙でくるみ、水でぬらし、アルミホイルで包み、焼き芋の下準備を行う。年少・年中児は、年長児が下準備をしている姿を見て、憧れの気持ちと共に、自分が年長組になった時に張り切って取り組む姿に繋がるように働きかけている。準備が出来たら全園児で焚火を囲み、芋を炎の中に入れていく様子を見て、煙の匂いを嗅いだり、炎の温かさを感じ焼き芋が出来上がるのを楽しみに待つ。出来立ての焼き芋の色や湯気、匂い、温かさを感じながら、みんなで分け合っていたり美味しく嬉しさを味わえるように働きかけている。(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『『野菜の栽培』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が97.9%、「まあまあ思った」との回答が2.1%であり、100%に近い保護者に理解していただけていることがわかる。また、『『野菜の栽培』の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですでお書きください。』の設問に対しては、「苗から育てることで食べ物を育てることの大変さや尊さを子どもたちが知ることができ、とても素晴らしいと思います。また、食べる時も生産者の方々や作物に感謝していただく、本当の『いただきます』に繋がると思いました。」、「マンション住まいで周りにも畑は無い環境に住んでいるので、なかなか作物がどのように育っていくのか、いつの季節に出来るのかを目にする機会がありません。実際に自分の経験として触れる事が一番の知識に繋がると思うので、とても良い経験をさせて

いただいていると感じています。」「自分の口に入れるものを、自分や家族の手で実際に作ってみることはとても良い事であると思います。普段私は、家庭の料理で使うものは大抵、駅前のスーパーで買います。子どもの帰宅前に料理を済ませるので、自分が食べる野菜がどんな風に育つのか、育つまでどれくらいの時間がかかるのかについて体験することは、食べ物、育てる人、料理をする人に対する感謝の気持ちを自然に育むことに繋がると思います。」「とても身近にある野菜ができるまでを身をもって感じ、知ることによって、生きているものへの感謝の心を育むだけでなく、それを言葉で表現することや周りの人との関係を育むことにまで繋がり、幼少期にとっても大切な経験をさせていただいているなど感じました。一つのことを通して、様々な思いや受け止め方などを育んでもらえたら嬉しいです。」といった、本園の保育観に触れるような回答があった。スーパー等で季節を問わず様々な食材が手に入る中、子どもたち自身が野菜を育て、生育過程を知る経験はとても大切だと考える。今後も、「園内に畑がある」という環境を整えていきたい。

イ 小鳥・うさぎ・かも当番

【現状の説明】

本園では、小鳥、かも、うさぎ等の小動物に親しみを持って触れあい、世話をすることを通して、小動物への思いや命の大切さを感じることをねらいとしている。このような経験の積み重ねは、小学校生活で学ぶ理科に繋がるものと考えている。こうした保育内容は、以下のような5領域のねらいとの関連を意識して組み立てている。

- 「健康」 ・ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 「人間関係」 ・ 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
 - ・ 自分でできることは自分でする。
 - ・ 友達と関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
 - ・ 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
 - ・ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする。
- 「環境」 ・ 生活の中で、様々な物に触れ、その物の性質や仕組みに興味や関心をもつ。
 - ・ 季節により、自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
 - ・ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- 「言葉」 ・ 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
 - ・ したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
 - ・ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋

ねたりする。

- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ・生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

「表現」

- ・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- ・生活の中で美しいものや、心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ・様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

小鳥・うさぎ・かも当番は、年長児がグループで順番に行っている。当番の子どもたちには、グループ全員で仕事をすることを意識させている。(人間関係)

当番の子どもたちは、朝体操服に着替え、餌を台所まで全員で取りに行き、保育室でかもの餌になる野菜を包丁で切る。この時に包丁は危ない物であることを意識させ、包丁の扱い方を知れるようにしている。また、かもの口の大きさを考え、食べやすい大きさに切れるように働きかけている。子どもたちが準備した餌は、教員がかも小屋に入り餌を与え、その様子を子どもたちは外から見るようにしている。かも小屋の中にいるカメにエサをあげる様子も見る。小鳥小屋には、子どもたちも長ぐつに履き替えて入り、静かにすること、小鳥とうさぎに気を付けながら過ごすことを意識できるよう働きかけている。小鳥やうさぎに餌をあげたり、触れ合ったりしながら、子どもたちが小動物への優しい気持ちを育み、命のあたたかさを感じられるようにしている。(環境・表現)

当番をしたその日に伝え合いのひとときを持ち、当番の子どもは感じたことや気付いたことを話し、クラスみんなで聞くようにしている。子どもたちは友だちの話に興味をもち、共感したり、次の当番を楽しみにする様子が見られる。(言葉・表現)

また、1年を通して世話をしていく中で、季節によって小動物たちの様子が変わっていくこと(冬ごもりでエサを食べなくなる・水の中から出てこない等)に気付いたり、動物の気持ちを考えて触れ合えるように働きかけている。

卒園前、年長児は年中児に小鳥・うさぎ・かも当番の仕事を引継ぎ、包丁を使うときは「猫の手」にすることや小鳥小屋には静かに入ること、かもの餌は小さく切ること等、自分たちの経験から考え、年中児に伝えている。引継ぎの後、年中児は、グループごとに教員が世話をしている様子を見て、小鳥・うさぎ・かも当番の仕事を知ることになる。その際教員は、年中児が実際に見ながら年長児の言葉と結びつく経験になるよう配慮し、年長組での小鳥・うさぎ・かも当番を楽しみに待てるよう働きかけている。(健康・環境・言葉)

【点検・評価と今後の取組】

保護者アンケート調査によると、『『小鳥・うさぎ・かも当番』に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。』の設問に対して、「思った」との回答が97.9%、「まあまあ思った」との回答が2.1%であり、100%に近い保護者に理解していただけてい

ることがわかる。また、『小鳥・うさぎ・かも当番』の話を聞いて思ったことや感じたことがある、どんなことでも結構ですのでお書きください。』の設問に対しては、「餌をあげる、お世話をする、命あるものを大切に作る、また、物でも人でも大切に作る気持ちが育ってきていると感じています。かもとかめが仲良しだと喜んだりしていました。」「家ではなかなか触れ合えない動物で、お当番だった日には動物の様子や、餌に何を食べていた等教えてくれます。動物のお世話も好きになってきたようで、触れ合うことで興味を持ってきており、嬉しく思っています。」「『うさぎ、かものごはん作ったよ』と包丁で細かく刻んだことを話してくれました。『細かく切ったからたくさん食べてくれたよ』と教えてくれました。家では動物を飼っていないので、園で動物を育てることの大切さを教えていただけることは嬉しく思います。命の大切さを心で感じて欲しいと思います。」「動物を愛おしく思う気持ちは大切な体験だと思います。家で『しろふわちゃんドキドキしてたよ。』と、動物を抱いた時に心臓の鼓動を体感したそうです。」「かものことを思って野菜を切る。自分もごはんを作る時に家族を思って作る。大切な事だと思いました。」等、クラス懇談会の話から、家庭での子どもたちの様子を聞かせて頂き、動物に親しみをもち触れたり、命あるものを育てる大切さを感じていることがわかった。また、「自分の時だけでなく、その日に担当した友だちの様子を伝え合いの時間に知り、共感できるひとときを持てるのはとても良いと感じた。」「私自身も、かものにキャベツを切ってあげていたことを思い出し、その時の匂いや包丁を使う緊張感が甦ってきました。感じることは皆違っても、それを共有できて、『そう感じたんだ』ということを知ることも大事だと思いました。」との記述回答から、伝え合いで子どもが自分の感じたことを言葉で表現すること、友だちの話聞くことの大切さに共感していただいていることがわかった。これからも、小鳥・うさぎ・かも当番の取組が、5領域のそれぞれのねらいに繋がっていることを教員が意識し、大事なことを確認し合いながら、子どもたちの経験が積み重なるように関わっていく。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

〈自己点検・評価の適切性〉

関西大学幼稚園では、2009年度から毎年、自己点検・評価を行ってきており、どの年度も保護者からの評価は非常に高いものであった。

2020年度からの新たな自己点検・評価方法として、本園の教育と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点を絞って、4年かけて一巡するという方法を取り始めた。今年度はその2年目である。

幼稚園教育要領では、健康・人間関係・環境・言葉・表現という5領域について、個別にねらいと内容が説明されているが、幼稚園教育は本来どこかの部分を切り取って行うものではなく、それぞれの教育内容はいずれも他の領域と関連し合っている。本園では総合的な教育内容がその学年にとどまらず、次の学年、その次の学年の教育と関連して発展し、やがて初等教育以降の教育につながっていくことを見据えたうえで、毎年その学年で経験する

教育内容が単年度のものではなく、積み重ねた経験が子どもたちの大きな成長につながっていくことを全教員が理解している。しかし、これは教員だけがわかっているというのではない。子どもが園で経験することをその場限りのものにするのではなく、連続性のあるものとして展開していき、子どもたちの成長につながるためには、保護者の理解が重要である。

このため、本園では教育課程をホームページに掲載し、保護者や関係者がいつでも理解できるようにしてきている。また、事前に5領域のねらいについてプリントにして保護者に配布しており、保護者はそれを読んだうえで、クラス懇談会に臨んでいる。後に述べるように、今回の自己点検・評価のために行ったアンケートの結果から、保護者は園の教育が5領域に関連していること、その位置づけや意義についての確に理解していることが明らかになったことから、今年度の自己点検・評価は適切に行われているといえる。

〈重点的な取り組みの適切性〉

学年ごとに、クラス懇談会で教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連について保護者の理解を得ているかを点検・評価するために本園では、既述のように、懇談会の際にアンケートを行っている。

本年度は年少クラスに対して、9月に「お弁当・給食」、11月には「散策」について尋ねている。食べるという行為は誕生の瞬間から始まり、生涯続くものである。この行為は人の身体の成長を促し、維持するとともに、心の栄養にもなる。報告書にあるように、食べることの楽しさや食べ物への関心を持つことをねらいとしている。「お弁当」では保護者が自分のために作ってくれたものを食す時、おいしいという味覚とともに、作ってくれた人の顔を思い出す。「給食」は友だちと同じものを食べ、作ってくれた人への感謝の気持ちを持てるようになる。幼児の食事の困りごととして偏食やよく噛まない、遊びながら食べるといったことがみられるが、教員や友だちと食事をする中で、自分の食欲を満たすだけでなく、他者への配慮、すなわち、マナーを守ること、みんなが楽しく食べることができるといったことを理解するようになる。ここには教えられるマナーよりも、自ら学ぶマナーがある。これについてはすべての保護者が5領域との関連を理解している。食を通じた学びが「子どもにとって様々なこと」につながっているという保護者の意見は、具体的な教育の場面をみえる形で伝えられているからこそである。「散策」は園内を教員や友だちと一緒に歩きながら、季節ごとに移り変わる植物を観察し、鳥の声を聴き、風の音に耳を澄ませて、全身で自然を体感する機会となる。長い歴史のある本園では、人工的に作られた園庭ではなく、自然の地形を活かし、何年も何十年もかけて成長した木々が生い茂り、実のなる木や、落葉樹、常緑樹、四季折々の花々を楽しむことができる。すべての保護者が、5領域との関連を理解している。

年中クラスには、9月に「安全教育（通園・避難訓練）」、11月に「チューリップの球根植え」について尋ねている。「安全教育」は日々の生活や命に直結するものであり、安全な環境を整える園の配慮により、安全に過ごす術を子どもたちが身につけるよい機会である。自ら危険を察知する力、危険を回避する力、そのいずれが欠けても子どもたちの安全は守れな

い。そのため、安全教育は大変時間のかかるものである。本園では通園時に交通ルールや公共マナーが習慣として身につくよう、園と保護者が協力して、一貫性のある対応を行っている。また、年間6回の避難訓練を行っており、地震、火災、不審者侵入を想定した対処方法について丁寧に時間をかけて指導している。これらに対しては保護者の95.8%が5領域との関連を理解している。「チューリップの球根植え」は子どもたちが一球ずつ手で植え、芽が出て、葉が育ち、つぼみをつけ、花が咲く様子を、数か月にわたって観察し、楽しみに待っている。花を育てるのはカウンセリングに通じるといわれるように、花に丁度よい土の状態、水やりなどを通して、相手の立場に立った見方や関わり方を学んでいく。96.1%の保護者が、5領域との関連を理解している。

年長クラスには9月に「誕生日のお祝い」、11月に「小鳥・うさぎ・かも当番」、「野菜の栽培」について尋ねている。「誕生日のお祝い」は子どもたちには自身の生まれてきたことを祝ってもらい、成長することと生きている幸せを感じる日であり、保護者にとっては大切な命に出会えた日である。子どもたちには自身の命を大切にしてもらおうと同時に、他者にも命や意思があることを理解する機会となり、その場にいるすべての人にとって、意義深い日となる。保護者の100%が5領域との関連を理解していた。「小鳥・うさぎ・かも当番」、「野菜の栽培」はいずれも命の尊さについて学ぶ機会である。チューリップの球根植えと同様であるが、世話をしなければ命が長らえないこと、命をいつくしみ、責任をもって世話をすることの大切さを学ぶことになる。保護者の97.9%が5領域との関連を理解している。

以上のように、ほとんどの保護者が、一つ一つの教育内容が決して単独で行われているのではなく、他のさまざまな領域との関連の中で営まれており、そのことが子どもたちの成長に深く関わっていることを理解している。幼稚園教育要領の5領域と本園の教育内容との関連を十分に理解していることから、本年度の重点的な取り組みは適切であるといえる。

〈自己点検の結果を踏まえた改善方策の適切性〉

幼児期から教えることを優先する教育は、子どもたちにとってはたくさんのかことを学ぶ機会となり、豊富な知識を持った子どもたちが育っていく。しかし、本園がこれまで行ってきた子どもの思いや考えを重視する教育は、子どもの自主性を高め、主体性を育むことになる。子どもたちは本当に見たいものを見、自ら工夫して好きな遊びに没頭する。そして、ここでの成功体験や満足感が自分の力を信じる基となる。友だちとの争いや勝敗や、苦しい思いや悔しい思いは、自身にとってはつらい体験であっても、教員がそばにいて、その体験を共有しながら、その時の子どもの気持ちを共に感じ、一緒に乗り越えていく。これがあるからこそ、どんな体験も自身の宝物となる。感情を伴って体験したことは、時を経ても心の引き出しのあちこちにあり、後年、同じような体験をしたときに、まるで今ここで体験しているかのようによみがえり、嬉しい体験はより嬉しく、つらい体験は乗り越えた記憶によって、また乗り越えることができるという自信につながる。

今年度の自己点検・評価の項目は、大本ではすべて命につながるものであった。アンケート調査では、幼稚園教育要領と5領域との関連の理解度について、項目ごとに自己点検・評

価し、96%～100%という非常に高い評価を得た。しかし、教員は保護者のさらなる理解を深めるためにどのようにすればよいかを検討しており、自己点検の結果を踏まえた改善方策は適切に行われている。

昨年度に続き今年度もまた、コロナ感染拡大防止のため、行事や取り組みはクラス単位で行う等、教育方法を変えざるを得なかった。しかし、そのような中であっても本園は、これまで通りの教育を行い、子どもに対して、どんな時も変わる事のない、寄り添い受け入れる姿勢を貫いた。この対応は、コロナ渦で子育てをする保護者の不安を受け止めることになり、幼稚園がそこにあることが心の安定・安心を担保することになった。見えないけれどそこにある、変えないように変えていく、本質は変えずに形を変えて行っていく教育が本園にはある。コロナ渦は人々の命や生活を脅かすことになったが、そのような中であっても、決して揺らぐ事のない信頼関係を子どもとも保護者とも築くことのできる園の存在を、本委員会は改めて高く評価したい。

6 「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園

園長 藤川 友香

本園の学校評価は、昨年度より「関西大学幼稚園教育課程」における教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点を当て、点検・評価しており、今年は2年目である。幼稚園教育要領の5領域については、事前に保護者に手紙で周知し、クラス懇談会で本園の教育内容を5領域に関連づけて伝え、理解していただけるように働きかけた。

幼児教育は、何より保護者（家庭）との連携が大切である。本園では、保護者へ教育内容を伝える手段として、園だよりや学年だより等の便りがあるが、クラス懇談会は教員が保護者に直接働きかけることができる機会であり、保護者に幼児教育への理解を深めていただけるようにクラス懇談会を充実させることが大切だと考えている。クラス懇談会では、具体的な子どもの様子を交えながら5領域との関連を伝えることで、よりイメージすることができ、保護者に本園の教育内容が子どもの育ちに繋がっていることを理解していただけたことが記述アンケートからわかった。また、園の考え、子どもへの関わりを知り、保護者自身が家庭での関わりを振り返り、園と共に子どもの育ちを考えていこうとする思いや保護者が気づかれたことがわかった。

近年、インターネットを利用し、気軽に子育てについて検索することで様々な解決法を得ることができる。我が子に当てはまることを検索しその場はしのげることもあるが、根本的な解決には至らないことが多い。子どもは、日々変化・成長するのでその時々への対応が大切であるが、マニュアルのように型にはまったものではないので保護者も苦慮するところである。本園は、「考えて行動できる子ども」に育てることを教育理念としている。子育てにおいても、目の前の我が子の状況をよく観察し、子どものことを考えて行動することが大切

であり、保護者にも働きかけているところである。少子化により入園して初めて他のお子さんとの違いを感じられる保護者も多く、子どもの育ちについて働きかけていく必要性を感じている。

今年度もコロナ禍での保育となり、様々な制限の中、できる限りこれまで通り実施できるように工夫してきた。クラス懇談会においても、できる限り短時間で行えるよう焦点を絞って伝えるようにした。このような状況下でも、多くの保護者はクラス懇談会に足を運び、アンケートにも毎回丁寧に回答していただき感謝の思いである。保護者の熱心な思いを知ると共に、今後も教職員一同で本園の教育の向上と充実に努めたいと強く思う。

7 アンケート結果

2021年度学校評価についてのアンケート項目一覧・実施対象者別アンケート結果比較一覧表（関西大学幼稚園）

2021年度 関西大学幼稚園 教員対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

以 上

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年少9月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「お弁当・給食」についてお伝えしました。

1. 「お弁当・給食」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「お弁当・給食」の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構です。お書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年中9月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「安全教育（通園・避難訓練）」についてお伝えしました。

1. 「安全教育（通園・避難訓練）」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思
いましたか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「安全教育（通園・避難訓練）」の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんな
ことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年長9月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「お誕生日のお祝い」についてお伝えしました。

1. 「お誕生日のお祝い」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「お誕生日のお祝い」の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年少 11月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「散策」についてお伝えしました。

1. 「散策」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いませんか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「散策」の話聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年中 11月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「チューリップの球根植え」についてお伝えしました。

1. 「チューリップの球根植え」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いましたが。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「チューリップの球根植え」の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

2021年度 関西大学幼稚園 保護者対象
学校評価に関するアンケート（年長 11月）

アンケートにご協力をお願いします。

今回のクラス懇談会では、「野菜の栽培」「小鳥うさぎかも当番」についてお伝えしました。

1. 「野菜の栽培」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思われましたか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 「野菜の栽培」の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなことでも結構です
のでお書きください。

3. 「小鳥うさぎかも当番」に関して、幼稚園教育要領の5領域と関連していると思いま
したか。

（1つ選んでください）

- A 思った
- B まあまあ思った
- C あまり思わなかった
- D 思わなかった

B、C、Dと答えた方はその理由をお書きください。

()

4. 「小鳥うさぎかも当番」の話を聞いて思ったことや感じたことがあれば、どんなこと
でも結構です
のでお書きください。

5. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。
